

2. 分野別状況 (2)地域活性化総合特区 ③アジア拠点化・物流分野

	総合評価 (ⅠとⅡとⅢを1:1:2の割合で計算)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
		目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
さがみロボット産業特区 (神奈川県)	3.9	4  進捗度 ・特区発ロボットの商品化状況 108%  ・実証実験等の実施件数 145%  ・生活支援ロボットの導入施設数 144% 等	3.4  規制の特例等 ・医療機器製造販売承認等の手続の円滑化(薬事法) 等  地域独自の取組 ・「セレクト神奈川NEXT」等による企業誘致の促進 等	4	<p>・ARやVR等のデジタル技術を活用して、県民や産業界に向けて、ロボットを身近に体験できる広報活動の効果に期待したい。その一方で、目標を大幅に下回った評価指標(1)や(2)について、その理由や対応策として、他業種(特に交通利便性が高い土地への進出意欲が高い物流事業者)との競合が発生し、土地の確保が困難な状況であること、本特区内の市町等と連携し、ロボットの部品等を供給できる県内中小企業の掘り起こしや開発企業との受発注マッチングにより更なる参加を促していくと書かれている。 容易に解決できるとは考えにくいため、今後、より具体的な対応方法をしっかり考えていってほしい。</p> <p>・進捗度は問題ない。評価指標(1)、(5)、(6)にて需要側の目標は達成しているため、供給側の目標を達成すべく、既に着手されている供給側における制約(土地確保など)の解消を進め、またマッチングサイトなどによる施策と併行して商工会の集りなどへの自治体職員の参加などを通じて県内企業の掘り起こしを試みることも一案かと思われる。</p> <p>・開発・実証・商品化はほぼ計画どおり、またはそれ以上の成果を挙げていることは、引き続き高く評価される点。 これまでに蓄積されているロボット導入や利用に関するデータ(導入施設・利用者からのフィードバック)がデータベースとして整理・蓄積されると、本特区のソフト面での優位性に加えられるのではないかと思う。</p> <p>・ロボット事業は他国とも競争が激しいのでなかなか厳しい部分もあると思うが、比較的よくやっている方であると思われる。</p>